２０１７　４／２５　　第２８号

ふくしま再生短信

イルミ輝け再生の道

「花仙人と作るいいたて花壇」プロジェクト同行記

いいたて花壇フィールドモニタリングへ→

2017/03/19　22:44:52　HOME

【写真説明】1. 花仙人こと大久保金一さん。2. バラ博士・中村昭良さん。3. バラ苗木。4. 水仙の株。5. チームで取り組む作業現場。6. 飯舘の地区を形どる石に沿いイルミネーションケーブルを設置。7. 金一さん（右）と聡太さん。【背景写真】マキバノハナゾノに帰ってきた金一車の走行ライトを迎える「いいたて花壇」イルミネーション（東大・溝口勝研究室フィールドモニタリングより）。

2017年3月19日午後、東大の学生グループ「いいはな」（リーダー：佐藤聡太さん）による「花仙人と作るいいたて花壇」作業に同行した。再生の会のメンバーを含めて30余名が参加。花壇構想は東大農学生命科学研究科国際情報農学研究室教授・溝口勝さん指導による農学国際特論Ⅰ/東大GCLワークショップ「飯舘村までいな農村計画2015 除染後農地におけるICTを用いた花園計画」（石渡尚之さんらチーム総勢9名）を端緒とする。学生たちが行き場の無いフレコンバッグのピラミッドに衝撃を受けながらも希望を見据える大久保金一さんの眼光に共鳴して、花園構想はついには講義の枠を超えて邁進するプロジェクトになった。

この日の作業は、バラの苗木、水仙の株、そしてイルミネーションのケーブルをそれぞれ担当する3チームに分かれて進行した。金一さんの畏友・中村昭良さん（茨城バラ会・会長）からバラの苗木と栽培について貴重な指導をいただいた。作業のあと川俣町の「おじまふるさと交流館」に移動、地元しゃも料理の夕食に続いて花仙人を囲む懇親のひとときがもたれた。熱いエール交歓のあと金一車は二日目の作業に備えるべく花仙人を待つマキバノハナゾノへと向かった。（文責＆撮影・若林一平）